

家庭教育力の強化を図ろう

～ 学校・家庭・地域の連携をさらに深める活動を通して ～

豊田市立竜神中学校PTA

1 学区及び学校の概要

本校は豊田市の南部に位置している。学区内に名鉄三河線の駅が2つ、学区のすぐ近くに東名高速道路の豊田ICがあり、交通の利便性の高い地域といえる。また、約750名の生徒が在籍し、豊田市内でも比較的大規模な中学校である。今年で創立48周年を迎え、「かしこく・ゆたかに・たくましく」の校訓のとおり、生徒たちはまじめに明るく、行事、学習、部活動などに対して前向きに取り組むことができる。

2 研究のねらい

本校の学校重点目標は、「自立・貢献 一夢をもち、自分で考え、行動できる人に」である。おもにキャリア教育を推進し、総合的な学習の時間を中心に位置づけ、系統的に学んでいる。生徒が主体的に行動したり、生きるために必要なコミュニケーションを図ったり、他の個性を理解しながら仲間と力を合わせたりする能力は今後一層必要なものとなる。そのためには、学校、家庭、地域が協働しながら、生徒を育てていくことが大切である。こうした視点で、PTAの活動が、家庭の教育力強化を図りつつ、積極的に参画することが重要だと考えた。

3 研究の仮説

- (1) 家庭や地域が学校のキャリア教育に参画し、自分のキャリアや経験をもとに、生徒に積極的にかかわる機会をもつことで、生徒は自分の生き方に対する視野を広げ、自立した大人へと成長するだろう。
- (2) 新型コロナウイルスの影響により、これまで取り組んできた様々なPTA活動が制約される中、縮小や廃止ばかりでなく、発想を転換することで、家庭、地域、学校の新たな連携のあり方が生まれ、生徒の健全な育成につながるだろう。

4 研究の実践

(1) キャリアチャレンジデイ

生徒に正しい職業観を育むとともに、自分の進路を前向きに考えることを目的として、1年生徒を対象にしたキャリアチャレンジデイを行った。これは実際に社会人と対面して、話を聞くこと、自ら対話することでコミュニケーション能力の向上を目指すものである。生徒が話しかけやすく、どんなことでも質問しやすい形態を模索する中で、様々な職業人の方をたくさんお招きすることになった。コミュニティ・スクールの枠組みを活用して募集したところ、地域や保護者から60人を超えるボランティアが集まった。当日、生徒は5人程度のグループに分かれ、1人につき3種類の職業人から、それぞれ20分ずつ話を聞くことができた。



【職業人と生徒のかかわりの様子】

《職業人の感想》

- ・少人数でも中学生と話す機会はこれまでなく、たいへん緊張しましたが、私の話を真剣に聞いてくれて楽しくなりました。

《生徒の感想》

- ・「仕事は一人でするのではなく、仲間とともにするものである」「お金より大切なことがある」という2つが大切だと思いました。誰かの笑顔のために働いている人がいることを知りました。

《ボランティアで集まった方々のおもな職業（一部）》

製造業、自動車修理業、美容師、医療関係、介護士、農業、栄養士、大学事務、保育士、薬剤師、ホテルマン、警察官、自衛官、介護士、大工、歯科技工士、旅行社、ブライダル関係、教育関係、楽器店、エンジニア、公務員、看護師、消防士、造園業、パティシエ、建設業

（２）３年生の面接練習ボランティア

生徒にとって、自分の進路先を決定し、その実現を果たすことは、とても重要なことである。これまで、受験のための面接練習は教員を中心に行われてきた。こうした取組にも地域や保護者が参画できないか考え、地域学校共働本部と連携し、面接官を務めてもらう方を募集し、約10名のボランティアが集まった。生徒は、本番に近い緊張感に包まれる雰囲気の中、「この練習で学んだことに気をつけ、自分の親にも面接練習をやってもらおうと思います」などの感想が寄せられた。



【面接練習の様子】

（３）リサイクルステーションの設置

昨年度まで、全学年生徒を対象にして、PTAも大きくかわりながら、年2回の資源回収活動を行ってきた。コロナ禍と臨時休校による授業時間確保のため、この活動の存続が難しくなり、リサイクルステーションの設置という新たな形の資源回収活動を行うことにした。地域や保護者に周知を図るとともに、個別懇談会などで来校する際に、保護者が家庭にある新聞紙や段ボール、アルミ缶



【リサイクルステーション】

など持ち寄ったり、近隣の地域住民がいつでも持ってこられるよう資源の投入口を常時開けて置いたりするなど工夫も加えた。自転車通学の生徒が多い実態から、登校するとき資源をわざわざもってくるような取組も今後予定している。

５ 成果と今後の課題

コロナ禍の時代は、学校・家庭・地域が連携することはとても難しい。しかし、生徒の健全な成長を目指し、できることはみんなで工夫しながら取り組みたい。地域や家庭が積極的に学校の活動に参画する新たな形を取り入れることで、生徒の姿が少しずつ変わってきたと感じている。様々なボランティアへの保護者の参加数をもっと伸ばし、できるだけ多くの大人が生徒の成長を見守ることのできるPTA活動へさらに改善するとともに、一つ一つの活動の成果と課題を発信しながら、学校・家庭・地域の連携を深めたい。